

1. 題材名 「曲想に合う歌声を追求し、よりよい歌声で表現しよう」

2. 題材の目標

- (1) 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 声の音色の工夫によって生み出される表現の変化の面白さや豊かさなどに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協動的に歌唱の学習活動に取り組み、日本唱歌に親しむ。(学びに向かう力・人間性等)

3. 指導事項との関連

第1学年 「A 表現」(1) 歌唱

ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること

イ (イ) 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解すること

ウ (ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けること

〔共通事項〕(1) ア (本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素:「音色」)

4. 題材設定の理由

本教材は、「ふるさと」を教材とした【表現】歌唱の題材である。本題材を通して、曲想と歌詞の構造や歌詞の内容に関心をもち、「ふるさと」のもつ言葉の抑揚や旋律の動きとの関わりについて理解し、歌ったり録音した自分の声を聴いたりしたりしながら、自分の目指す歌声に近づくように歌うことをねらいとしている。

生徒は、日々たくさんの音楽の中で生活している。年度初めに音楽に関するアンケートをすると「音楽を聴くこと」「歌ったり楽器を演奏したりすること」が“好きである”と答えた生徒が多くいた。1年生の生徒は音楽の授業にも意欲的で、「We'll Find The Way～はるかな道～」の二部合唱では、美しいハーモニーを表現するために深い声で歌ったり、楽譜に表記されている強弱記号をダイナミックに表現したりして伸びやかに歌い、歌唱表現活動を楽しむ姿が見られた。学園祭や合唱発表会に向けた合唱練習では、意欲的にパート練習に取り組み、よりよい合唱づくりをしようと努力していた。

本題材の学習を通して、どのような歌声で表現したいかという思いや意図を明確にし、個々の目標を達成するために学習方略となる《課題を解決するための様々な手段》である動画をヒントにしながら、自ら練習を繰り返し行うことでよりよい歌声で表現することができることを目指していきたい。そのために、様々な歌い声の聴取教材を比較して聴くことで、それぞれの声の音色の特徴に気づかせる活動を取り入れる。また、今後の歌唱表現に生かしていくことができる柔軟な歌い方を見つけて、豊かな表現活動をしていこうとする気持ちを育むことを目指していきたい。

5. 教材について

(1) 歌唱教材

「ふるさと」 高野辰之 作詞 / 岡野貞一 作曲

鑑賞教材

「縁故節」 山梨県民謡

「O Sole Mio」 G.Capurro 作詞 / E.Capua 作曲 / ルチアーノ・パヴァロッティ 歌

「赤とんぼ」 三木露風 作詞 / 山田耕筰 作曲 / 野々村彩乃 歌

(2) 教材選択の理由

文部省唱歌である「ふるさと」は、小学校第6学年の歌唱共通教材であることから、生徒にとっても馴染みのある歌唱曲である。離れたふるさとを思い出しながら、ふるさとを懐かしむ心情や未来への決意を歌った穏やかな曲想となっている。へ長調で4分の3拍子、速度は♩=80～88でゆったりとした曲調。単純な旋律であることから、歌唱しながらよりよい歌声を追求するためにふさわしい教材である。自分自身の声と向き合う時間を多く作り、今後の歌唱活動に生かせる力を身に付けたいと考え、この教材を選択した。

6. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 技 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けて歌唱で表現している。	思 音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	態 声の音色の工夫によって生み出される表現の変化の面白さや豊かさなどに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現の歌唱の活動に取り組もうとしている。

7. 指導計画と評価計画（全3時間）

時	◎ねらい　○学習内容　・学習活動	評価規準 【評価方法】			☆Aと判断する生徒の状況例 ■個別な働きかけを要する生徒への支援
		知技	思	態	
◎「ふるさと」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解し、どのような歌声で表現できるようにしたいか見通しをもつ。					

1	○学園祭で歌った学年合唱「あさがお」の録音を聴き、声の音色についてグループで話し合う。 ・「あさがお」の録音を聴き、自由に話し合う。 ・声の音色に注目して、もう一度「あさがお」1 番の部分の録音を聴く。 ・声の音色について気づいたことをワークシートに記入し、学級全体で発表する。 ○「ふるさと」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解する。 ・「ふるさと」を繰り返し歌い、旋律を覚える。 ・歌詞の意味を理解する。 ・三宅由佳莉による「ふるさと」を3 番まで聴く。 ・曲想や歌声に注目しながら再度「ふるさと」を聴き、気づいたことをワークシートに記入する。 ・ワークシートに記入したことをもとに、学級で発表する。歌詞による雰囲気の違いに気づかせる。 ・日本の歌曲を表現するためにふさわしい声とはどのような声なのかについて、範唱を基に考え、全体で共有する。 ○「ふるさと」を歌唱し、自分の歌声を録音する。 ・「ふるさと」1 番を一斉に歌唱し、生徒自身の iPad で自分の歌声を録音する。 ・ヘッドホンを使って録音を聴き、自分の歌声を聴いて聴き取ったことや感じ取ったことをワークシートに記入する。 ・聴き取ったことと範唱を基に確認した目標とする声を比較し、自分の歌声のよい部分や足りないと感じる部分をまとめる。 ・自分の目指したい歌声はどのような声かを考え、ワークシートに記入し。本題材の授業における個人の仮目標を設定する。 例) ・かすれた声だから、芯のある声を目指したい。 ・曲にふさわしくなるように、やわらかい声にしたい。 ・声の響きを意識して、今より遠くまで届く声にしたい。 ○本時を振り返り、今後の見通しを持つ。 ・自己評価カードに本時の振り返りを記入する。				
---	---	--	--	--	--

	・次時は最終的な目標を具体的に決めていき、一人一人が自分の声と向き合い歌う中で、よりよい歌声を目指していくことを行っていくことを理解する。				
◎様々な歌唱曲の声の音色について比較聴取し、どのような声で歌いたいかという思いや意図をもつ。					

2	○様々な歌唱曲を聴き、声の音色について比較聴取する。 ・「縁故節」、「O Sole Mio」、「赤とんぼ」を比較聴取し、それぞれの歌声の聴き取ったと感じ取ったことをワークシートに記入する。それぞれの歌唱曲の声の音色について、違いや共通点に触れさせる。 ・ワークシートに記入したことをもとにグループで意見を交わし、学級全体で発表する。 ・学級全体で共有した歌声の特徴からいくつか選び、全員で同じような歌声で「ふるさと」を歌唱する。このとき、よい歌声だけでなく、ふさわしくない歌声も例に出しておく。 ○「ふるさと」を歌唱し、自分の歌声を録音して聴く。 ・「ふるさと」1番を一斉に歌唱し、生徒自身のiPadで自分の歌声を録音する。 ・ヘッドホンを使って録音を聴き、自分の声の音色に注目して聴き、聴き取ったことや感じ取ったことをワークシートに記入する。 ・自分の歌声についてよいところや課題となるところを再度明確にする。 ○「ふるさと」を歌うときにどのような声で歌いたいか、具体的な目標を設定する。 ・前時に立てた仮目標や様々な歌唱曲を聴いたこと、実際に自分の歌声を聴いたことをもとに、具体的な目標を設定する。 ○本時を振り返り、次回の授業の見通しを持つ。 ・ロイロノートで録音した音源を提出する。 ・自己評価カードに本時の振り返りを記入する。 ・立てた目標を達成のために明確にした課題点を解決してよりよい歌声で歌唱することができるよう、次回の授業では個々で歌唱練習を行っていくということを理解する。	知 【ワークシート】	思 【ワークシート】	知 ☆知覚した音楽を形づくっている要素やそれらの働きが生み出す特性や雰囲気を感じたことを具体的に記述している。 ■ 声の音色について聴き取れない生徒には、どのような声かたずね、教師と一緒に言葉にしていく。 思 ☆曲にふさわしい声の音色について具体的なイメージをもち、どのように歌うかについて、音色以外の要素についてもよりどころとしながら、自分の言葉で表現している。 ■ どのように歌うかという思いや意図がもてない生徒に対しては、ふさわしい歌声について範唱を聴きながら一緒に考えたり、友達の意見を参考にさせたりする。
---	--	---	--	---

◎よりよい歌声を出すために必要な技能を生かして歌唱表現を工夫し、日本唱歌に親しむ。

3 (本時)	○前時に録音した「ふるさと」の歌声を聴き、個人が立てた目標を達成するために明確にした課題点を、再度確かめる。 ・ヘッドホンで前時に録音した「ふるさと」の歌声を聴く。 ・ワークシートに記入した課題点を再度確かめ、本時の授業で解決すべきことを明らかにする。 ○設定した目標を達成するために、歌唱時のヒント《学習方略》となる動画を見て個人で練習・録音を繰り返し行い、よりよい歌声を追求する。 ・ロイロノートで配布された歌唱時のヒント《学習方略》となる動画を用いて聴きながら、練習する。 ・練習で手ごたえを掴むことができたなら、録音部屋で録音し、第1音楽室に戻り再度聴く。 ・練習したり録音したりすることを納得いくまで繰り返し練習する。 ・どのように歌ったらよりよい歌声で表現できるかワークシートに記入しながら、活動する。 ・最終的に録音音源を、ロイロノートで教師に提出する。 ○本時を振り返る。 ・最後に個人でよりよい歌声で歌うために練習してきた成果を発揮しながら、学級全体で歌唱する。 ・よりよい歌声を目指すために各自で立てた目標を達成できたかどうか、自己評価カードに本時の振り返りを記入する。	【技】 【観察・録音音源】		【技】☆繰り返し歌ったり聴いたりする活動を通して、よりよい声で歌うために目標を意識し、既習の知識や技能を生かしながら声の音色を工夫して歌唱表現している。 ■歌う範囲を一部分に絞り、その部分を目標に向かい歌うことができるようにこだわり教師と一緒に歌いながら練習させる。 【態】☆声の音色の工夫によって生み出される表現の変化の面白さや豊かさなどに興味をもち、自分の考えを積極的に伝えたりして歌唱の活動に意欲的に取り組んでいる。 ■主体的に学習に取り組めない生徒には、対話をしたり実際の演奏を確かめたりして、うまくできていることに関しては積極的に認め、無理なく取り組ませる。
-------------------	--	--------------------------	--	--

【態】
【観察】
【自己評価カード】

8. 本時の展開（3時間目）

（1）日 時 令和5年11月23日（木）9：45～10：35

（2）場 所 山梨大学教育学部附属中学校 第1音楽室

（3）本時の目標 「曲にふさわしい歌声で歌うために必要な技能を生かして歌唱表現を工夫し、日本唱歌に親しむ。」

（4）展開

過程	学習のねらいと学習活動	教師の指導・支援	評価・備考
導入 (5分)	1. 前時に録音した「ふるさと」の歌声を聴き、目標を達成するために個人がよりよい歌声をめざすために明確にした課題点を、再度確かめる。 ・一斉に「ふるさと」を歌う。 ・ヘッドホンで前時に録音した「ふるさと」の歌声を聴く。 ・ワークシートに記入した課題点を再度確かめ、本時の授業で解決すべきことを明らかにする。	・前時までの振り返りを意識させながら、歌わせる。 ・目標とする三宅由佳莉さんのような歌声がどんな声だったか、振り返る。 ・前時に使用したワークシートを確認させる。	学習形態 一斉、個人 態【観察】
展開 (40分)	本時のねらい：ヒントをもとに練習を重ね、曲にふさわしい歌声でふるさとを表現しよう！		
	2. 設定した目標を達成するために、歌唱時のヒント《学習方略》となる動画を見て個人で練習・録音を繰り返し行い、よりよい歌声を追求する。 ・ロイロノートで配布された歌唱時のヒント《学習方略》となる動画を用いて聴きながら、練習する。 ・練習で手ごたえを掴むことができたなら、録音部屋で録音し、第1音楽室に戻り再度聴く。 ・練習したり録音したりすることを納得いくまで繰り返し練習する。そのとき、1時間目に録音した歌声と比較して聴き、自分自身の歌声の変化にも注目しながら歌う。 ・どのようなことに意識をして歌唱	・ロイロノートであらかじめヒントとなる動画を送っておき、自由に聴きながら歌唱できるようにする。 例) 芯のある声で歌うためには 深い声で歌うためには ・ワークシートを配布し、どのようなことを意識して歌唱したらうまくいったかなどメモしながら活動させる。 ・録音部屋1（音楽科研究室）と録音部屋2（会議室）を用意し、録音するときにはタブレットをもって行	学習形態 個人 技【観察】 【録音音源】

	したらよりよい歌声で表現できる かワークシートに記入しながら、活動する。 ・最終的に録音音源を、ロイロノートで教師に提出する。	き、録音させる。 ・それぞれが立てた目標に向けて取り組み、誰が聴いても変わったと思えるような歌声を目指させる。必要に応じて、教師や友人に録音を聴いてもらう。 ・1番全てを歌唱することが困難な場合には、歌唱するフレーズを一部分に絞り、こだわって練習させる。	
まとめ (5分)	3. 本時を振り返る。 ・最後に個人でよりよい歌声で歌うために練習してきた成果を発揮しながら、学級全体で歌唱する。 ・よりよい歌声を目指すために各自で立てた目標を達成できたかどうか、自己評価カードに本時の振り返りを記入する。	・生徒の目指してきたよりよい歌声で表現することを意識させる。 ・粘り強く取り組めたか・試行錯誤しながら学習に向かうことができたかなどに触れながら、振り返らせる。	学習形態 個人 主【自己評価カード】

〈引用・参考文献 等〉

- ・中学校学習指導要領 文部科学省 H29
- ・中学校学習指導要領解説 音楽編 文部科学省 H29.6
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 音楽編 文部科学省
R2.3 国立教育政策研究所 教育課程研究センター
- ・山梨大学教育人間科学部附属中学校研究紀要 H23~27
- ・山梨大学教育学部附属中学校研究紀要 H28~R1
- ・中央教育審議会 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」 H28.12 文部科学省
- ・中学校新学習指導要領の展開 音楽編 H29 副島和久編著 明治図書
- ・中学校教育課程実践講座 音楽 H30 宮下俊也編著 ぎょうせい
- ・中央教育審議会 「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」 H31 文部科学省
- ・中学校新学習指導要領「音楽の授業づくり」 H30 加藤徹也・山崎正彦著 明治図書出版